

日本語論の発展問題

小池清治『現代日本語探究法』朝倉書店 2001

(1) 夏目漱石『坊つちやん』の冒頭部である。

親譲りの無鉄砲で小供の時から損ばかりしてゐる。小学校に居る時分学校の二階から飛び降りて一週間ほど腰を抜かした事がある。なぜそんな無闇をしたと聞く人があるかも知れぬ。別段深い理由でもない。新築の二階から首を出してみたら、同級生の一人が冗談に、いくら威張つても、そこから飛び降りる事は出来まい。弱虫やーい。と囃したからである。小使に負ぶさつて帰つて来た時、おやぢが大きな眼をして二階位から飛び降りて腰を抜かす奴があるかと云つたから、この次は抜かさず飛んで見せますと答へた。

- ① 各文の述語に下線を施し、対応する主語を確認してみよう。
- ② 対応する主語がない場合、主語を想定してみよう。
- ③ 想定される主語を明示した文章と原文とを比較してみよう。

(2) 次の各文の「水が」を文法的に説明してみよう。

- ① 水が流れる。
- ② きれいな水がある。
- ③ 水が冷たい。
- ④ 水が飲みたい。
- ⑤ 水が命だ。

(3) 二重下線部の表現は「動作主」を表すが、文の性質や意味の点で異なるところがある。それぞれの相違について、考えてみよう。

- ① 犬が吠える。
- ② 太陽が昇る。
- ③ 私には答える事ができない。(私ができない)
- ④ それは娘にやらせましょう。(娘がやる)
- ⑤ 子供の頃、よく父に叱られました。(父が叱る)
- ⑥ 準備はわたしたちでやります。(わたしたちがやる)
- ⑦ 君から申し込まれた件、解決したよ。(君が申し込む)
- ⑧ 校長先生より朗報が伝えられた。(校長先生が伝える)
- ⑨ 君までそんなことを言うのか。(君が言う)

(4) A a, B b の対比において、b が言えない理由について考えてみよう。

- ① A 鈴木と田中が線をひきました。
a 鈴木と田中で線をひきました。
B 鈴木と田中が風邪をひきました。
* b 鈴木と田中で風邪をひきました。
- ② A 私が頼んであげます。
a 私から頼んであげます。
B インフルエンザで多くの人が死にました。
* b インフルエンザで多くの人から死にました。

(5) 次の二重下線部を「主語」と言ってよいかどうか、考えてみよう。

- ① こんな事がわからないのか。
② 完成には1か月が必要だ。
③ 水が飲みたい。
④ そこから富士山が見えますか。
⑤ 絵を描くのが得意だ。
⑥ 沿道の応援が励みだった。
⑦ あの先生はいつも時間が正確だ。
⑧ あれでは客が気の毒だ。
⑨ 実はそのことが気になるのです。
⑩ 私は数学が苦手だ。

(1) 次のA・Bの表現の含み相違について考えてみよう。

- ① A 長さが5メートルある？
B 長さが5メートルない？
- ② A 出発まで時間ある？
B 出発まで時間ない？
- ③ A あなたは、外国で生活したことがありますか？
B あなたは、外国で生活したことはありませんか？
- ④ A 箱に、危険と書いてある？
B 箱に、危険と書いてない？
- ⑤ A 昨日、先生からお父さんに電話があった？
B 昨日、先生からお父さんに電話がなかった？
- ⑥ A 彼は、今病床にあるの？
B 彼は、今病床にないの？
- ⑦ A 勉強部屋に、子供がいるの？
B 勉強部屋に、子供がいないの？
- ⑧ A お姉さんご夫婦にはお子さんがいるの？
B お姉さんご夫婦にはお子さんがいないの？

(2) 次の各文は「ウナギ文」と呼ばれる文である。どのような場面での発話か、またどのような表現が省略されているか、考えてみよう。答えは、複数ある。

- ① 私は、コーヒー。
- ② 姉は男で、妹は女です。
- ③ 鈴木君はニューヨークですが、ぼくは、パリです。
- ④ 父は会社で、母は買い物で、兄は大学です。
- ⑤ 私は、栃木県です。

(3) 次の表現の曖昧さはどのようなことに起因するか、考えてみよう。

- ① お肉 300g ほど下さい。
- ② 彼が有名な松坂投手のお父さんです。
- ③ 先生と手を握っている春子と夏子。
- ④ 母は泣きながら汽車に乗る秋子を見送った。
- ⑤ 演習は冬木先生の研究室の方で行います。
- ⑥ お料理は全部食べられませんでした。
- ⑦ 無いものは無い。
- ⑧ 山田君のように馬鹿なことをしない人を求めている。
- ⑨ 大きな栗の木の下
- ⑩ 母が恋しいと思う人

(1) 次の各表現について、考えてみよう。

- A 小さな 赤い イタリア製の 車
- B 小さな イタリア製の 赤い 車
- C 赤い 小さな イタリア製の 車
- D 赤い イタリア製の 小さな 車
- E イタリア製の 小さな 赤い 車
- F イタリア製の 赤い 小さな 車

① 最も自然と感ずる表現はどれか。

② 音節という観点でA～Fを整理してみると、次のようになる。そのことと、

①の結果とは関係があるかどうか考えてみよう。

「小さな」(4音節) 「赤い」(3音節) 「イタリア製の」(7音節)

a 4+3+7

b 4+7+3

c 3+4+7

d 3+7+4

e 7+4+3

f 7+3+4

③ 表現構造の観点から見ると、「赤い」=語・形容詞、「小さな」=語・連体詞、「イタリア製の」=文節・名詞句である。このことと①の結果とは関係があるかどうか考えてみよう。

④ 接続助詞「て」と「ので」による条件表現の相違について、調べてみよう。

(1) 次の「全然」の用法がどのようなものか判定し、A(情態副詞)・B(程度副詞)・C(呼応副詞)を付けてみよう。(太宰治『斜陽』)

- ① あなたは、他の男のひとと、まるで全然ちがつてゐます。
 - ② お食事は、もう、けさから全然とおらず……
 - ③ 私のこの場合にも全然、無関係でないように思われた。
 - ④ 僕は自分がなぜ生きてゐなければならないのか、それが全然わからないので
- す。
- ⑤ この不思議な言葉は、民主主義とも、またマルキシズムとも、全然無関係のものなのです。
 - ⑥ 民主主義ともマルキシズムとも全然、無関係の言葉の筈なのに……

(2) 「きっと……だ」「けっして……ない」「まったく……ない」「ちょっと……ない」「まるで……ない」「まるで……みたいだ」などの呼応副詞(陳述副詞)に、情態副詞や程度副詞の用法があるか、ないか確認し、ある場合には派生関係を考えてみよう。

(3) 「超まずい。」「超暑い。」など「超——」の例を集め、それらと、「超高速」「超高層ビル」「超人」「超越」「超過」などの「超」との異同について、考えてみよう。

(1) 下線部の意味を考えてみよう。

- ① この品物は高い。しかし、物が悪い。
- ② この品物は高い。しかし、物が良い。
- ③ この品物は安い。しかし、言い値で買うのはどんなものか。
- ④ しかし、暑かったね。今年の夏。
- ⑤ 君にも、こまったものだね、しかし。
- ⑥ 雨がひどいね。でも、サッカーの試合はやるんじゃないか。
- ⑦ 試合はまさに泥仕合だった。でも、選手たちには感心したよ。
- ⑧ 「早くやりなさい。」「でもお、わたし、お腹がすいているんだもん。」

(1) 各文の「た」の働きについて、考えてみよう。

- ① 昨日、お父さんから、電話があった。
- ② 今年登ると、3回富士山に登ったことになる。
- ③ 入場券を買った人は、右手に進んでください。
- ④ パリに行った時には、かならずルーブル美術館に行くことにしている。
- ⑤ エジプト展、もう見に行きましたか。
- ⑥ お探しの本、何でしたか？
- ⑦ そうだ、明日は試験だった。
- ⑧ あっ、あった。よかった。
- ⑨ 雨が降らなかつたら、日本が勝つていた。
- ⑩ 残つた。残つた。

(1) 次のA a・B bの表現の意味の違いについて考えてみよう。

- A 今の映画、おもしろかったよ。 a 今の映画、おもしろかったよ？
B 今の映画、おもしろかったね。 b 今の映画、おもしろかったね？

(2) A・Bの発話について、場面・文脈の相違を考えてみよう。

- A 学校へ、行くよ。
B 学校へ、行くね。

(3) 次の発話の主体は男性か、女性か判定してみよう。

- ① よくわかるわ。
- ② そんなこと、嘘よ。
- ③ そら、行くぜ。
- ④ これで、わかるかしら。
- ⑤ ほら、月が出るぞ。

(4) 前問で男性と判定された発話は女性の発話に、女性と判定された発話は男性の発話に変換してみよう。

(5) 日本語の終助詞に男女差がある理由について考えてみよう。また、他の品詞（感動詞・形容動詞）などでどう男女差があるかについても考えてみよう。

(6) 日本文法に関する諸説で、文の定義がどうなっているかについて調べてみよう。